

雑草イネ防除暦

平成28年3月作成

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月		
旬	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中

生態および防除時期



雑草イネ出芽 ← 代かき前の圃場の様子 (5月中旬)

対策1
代かき・移植

対策2
除草剤処理

雑草イネの種類によって出穂期は異なる

雑草イネ 出穂 →

対策3
手取り除草

収穫後は翌春まで耕起しない。冬の寒さにさらして種子を死滅させる。

防除の手順

対策1

雑草イネの出芽揃い期後 **5月下旬以降に代かきを行い雑草イネを埋土して死滅させる。**

代かきは浅水で丁寧に2回行う。
代かきが不十分だと浮き苗が定着して出穂する。

対策2

代かき後に発生する雑草イネを除草剤で防除する。
除草剤は3回体系処理。
7～10日間隔で処理し、剤の効果を切らさない。

①初期剤 : 移植同時～翌日
②一発処理剤 : 移植後 7～10日
③中期剤 : 移植後14～20日


※ 耕起前の雑草イネの埋土種子量が2粒/m²程度なら、3回目の中期剤は省略可能

対策3

出穂した雑草イネは**手取り除草を行う。**
雑草イネを見分けやすくするため**出穂期や稈長に差がある品種**を作付けする。

手取り除草は、雑草イネの脱粒前(出穂10日頃まで)に行う。
雑草イネは出穂期が長いので3回程度に分けて実施。

圃場の様子と注意点




↑ 代かきで雑草イネを埋土

雑草イネの種子の寿命は3年程度のため **防除は3年継続する**

↓ 体系防除の例

	初期剤	ソルネット1キロ粒剤
例1	一発処理剤	ポデーガード1キロ粒剤
	中期剤	ナイスミドル1キロ粒剤
例2	初期剤	アルハーブフロアブル
	一発処理剤	マキシ-ＭＸ1キロ粒剤
	中期剤	ナイスミドル1キロ粒剤

- 雑草イネの種類によらず、対策は同様である。
- 雑草イネに有効な除草剤は、左表の例の他、(公財)日本植物調節剤研究協会HPに掲載されているので参照する。ただし、有効な剤であっても、雑草イネ緑化期以降は効果がないので注意する。
- 代かき後、移植までなるべく日数を空けない。
- 近隣圃場にまん延しないよう、発生圃場の機械作業は可能な限り後回しにし、機械の洗浄を徹底する。また、抜き取り株は埋め込むか焼却処分する。



↑ 出穂した雑草イネの様子

※ 除草剤の使用時は登録内容を十分に確認して適正に使用すること。ここに記載の登録内容は平成28年3月16日現在のものである。